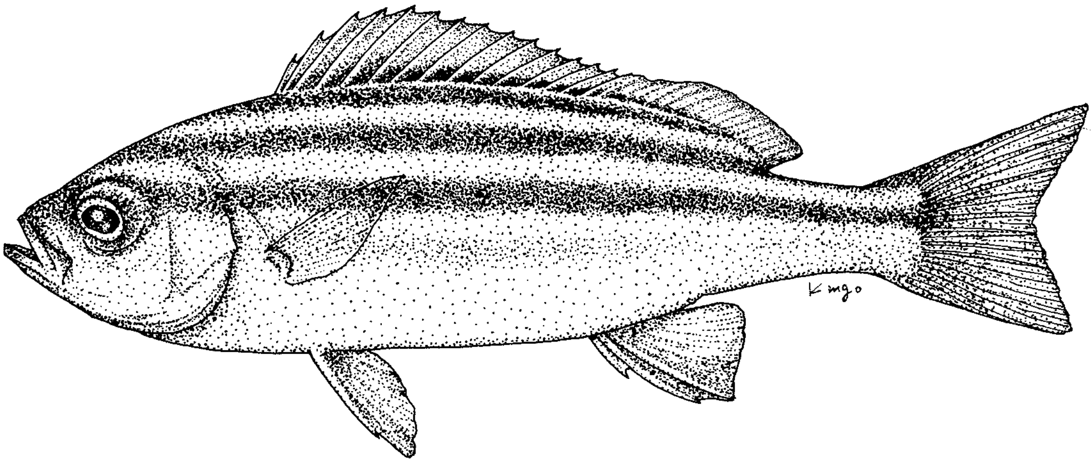
2010 年度

日本魚類学会年会

プログラム

The 43rd Annual Meeting, 2010



期日：2010 年 9 月 23 日（木，祝日）－ 9 月 26 日（日）
場所：三重県文化会館

日本魚類学会

The Ichthyological Society of Japan

2010年度日本魚類学会年会実行委員会
木村清志（委員長；三重大院水実），河村功一，
宮崎多恵子，淀　太我（三重大院生資）

プログラム，要旨集イラスト
津本欣吾（三重水研）

2010 年度日本魚類学会年会タイムスケジュール

○口頭発表第 1 会場：第 2 ギャラリー（2 階）
○口頭発表第 2 会場：小ホール（地階）
○ポスター発表：第 1 ギャラリー（2 階）
○総会：小ホール（地階）
○奨励賞受賞講演：小ホール（地階）
○オークション：第 1 ギャラリー（2 階）
○休憩室：大会議室（2 階）
○シンポジウム会場（黒潮）：小ホール（地階）
○シンポジウム会場（タナゴ）：第 2 ギャラリー（2 階）
○懇親会：津センターパレス（バスで移動）

9 月 23 日（木，秋分の日）

12:00 － 14:30 編集委員会：小会議室（2 階）
15:00 － 17:00 評議員会：大会議室（2 階）

9 月 24 日（金）

<table>
<tr><th></th><th>8:45 －</th><th>9:15 － 11:00</th><th></th><th>11:15 － 12:30</th><th></th><th>13:00 － 14:00</th><th>14:00 － 15:15</th><th></th><th>15:30 － 16:45</th><th>18:00 － 20:00</th></tr>
<tr><td>口頭発表第 1 会場（第 2 ギャラリー）</td><td rowspan="3">受付</td><td>分類・系統・形態・分布・魚類相（軟骨魚類・ウナギ目・コイ目）1 － 7</td><td>休憩</td><td></td><td>昼食</td><td></td><td>分類・分子遺伝・分布・魚類相（コイ目・サケ目・タラ目・アシロ目）8 － 12</td><td>休憩</td><td>分類・形態・分子遺伝（ダツ目・カサゴ目・スズキ目）13 － 17</td><td rowspan="3">懇親会（津センターパレス）</td></tr>
<tr><td>口頭発表第 2 会場（小ホール）</td><td>保全 42 － 48</td><td>休憩</td><td>総会・受賞講演</td><td>昼食</td><td></td><td>生態・保全 49 － 53</td><td>休憩</td><td>生態 54 － 58</td></tr>
<tr><td>ポスター発表（第 1 ギャラリー）</td><td colspan="4">ポスター発表（偶数番号自由発表）</td><td>コアタイム（偶数番号）</td><td colspan="3">ポスター発表（偶数番号自由発表）</td></tr>
</table>

９月 25 日（土）

11:45 － 13:30 自然保護委員会：小会議室（２階）

<table>
<tr><th></th><th>8:30 —</th><th>9:00 — 10:30</th><th></th><th>10:45 — 12:00</th><th></th><th>12:30 — 13:30</th><th>13:30 — 15:00</th><th></th><th>15:15 — 17:00</th></tr>
<tr><td>口頭発表第 1 会場（第 2 ギャラリー）</td><td rowspan="3">受付</td><td>分類・分子遺伝（カサゴ目）18 — 23</td><td>休憩</td><td>分類・分子遺伝（カサゴ目・スズキ目）24 — 28</td><td>昼食</td><td></td><td>分類・分子遺伝・分布（スズキ目）29 — 34</td><td>休憩</td><td>分類・分子遺伝・分布（スズキ目・カレイ目・フグ目・ほか）35 — 41</td></tr>
<tr><td>口頭発表第 2 会場（小ホール）</td><td>生態・行動 59 — 64</td><td>休憩</td><td>生態・行動 65 — 69</td><td>昼食</td><td></td><td>生態・保全・資源 70 — 75</td><td>休憩</td><td>生態 76 — 81（16:45 終了）</td></tr>
<tr><td>ポスター発表（第 1 ギャラリー）</td><td colspan="4">ポスター発表（奇数番号自由発表）</td><td>コアタイム（奇数番号）</td><td colspan="3">ポスター発表（奇数番号自由発表）</td></tr>
</table>

９月 26 日（日）

<table>
<tr><td>口頭発表第 1 会場（第 2 ギャラリー）</td><td rowspan="2">受付（9:00 —）</td><td>シンポジウム
タナゴ亜科魚類を象徴とした持続可能な流水生態系保全の理論と実践（10:00 — 16:00）</td></tr>
<tr><td>口頭発表第 2 会場（小ホール）</td><td>シンポジウム
黒潮と日本の魚類相：ベルトコンベヤーか障壁か
（9:30 — 16:30）</td></tr>
</table>

2010 年度日本魚類学会学会賞

日本魚類学会奨励賞　受賞講演

「自由な発想で考える：シクリッドの分類・進化・生態」

高橋鉄美（京大理）

時間　12:00 — 12:30 場所　第 2 会場（小ホール）

日本魚類学会論文賞

「Horizontal gradient in fish assemblage structures in and around a seagrass habitat: some implication for seagrass habitat conservation」

堀之内正博 (島根大汽水セ)

「Mitochondrial genome and a nuclear gene indicate a novel phylogenetic position of deep-sea tube-eye fish (Stylephoridae)」

宮　正樹 (千葉中央博)・Nancy I. Holcroft (Johnson County Community College)・
佐藤　崇 (東大海洋研)・山口素臣 (理研)・西田　睦 (東大海洋研)・
E. O. Wiley (The Univ. of Kansas)

研究発表プログラム

口頭発表

（1 演題の持ち時間は，発表 12 分と質疑 3 分の合計 15 分，共同発表者のうち ○は演者）

口頭発表第 1 会場（第 2 ギャラリー）

9 月 24 日（金）

午前の部　9:15 − 11:00

（分類・系統・形態・分布・魚類相：軟骨魚類・ウナギ目・コイ目）

1　9:15 −　カグラザメ目の鰓弓の相同性
○須田健太（北大院水産）・仲谷一宏（北大）・矢部　衞（北大院水産）

2　9:30 −　北西太平洋から採集されたウツボ属葉形仔魚 6 タイプの種同定とその形態
○田和篤史・望岡典隆（九大院農）・小早川みどり（九大システム生命）・
内海遼一（和歌山県）・吉村　拓（西海区水産研究所）

3　9:45 −　ウナギ目の新科を発見：パラオの海底洞窟に生息する「生きた化石」
○宮　正樹（千葉中央博）・井田　齊（北里大）・
G. David JOHNSON（スミソニアン研究所）・
坂上治郎（サザン・マリン・ラボラトリー）・　佐土哲也（千葉中央博）・
朝日田　卓（北里大）

4　10:00 −　コイ科クルター亜科の類縁関係
○武内啓明・細谷和海（近大院農）

5　10:15 −　カマツカ種群の形態分化
○富永浩史・渡辺勝敏（京大院理）

6　10:30 −　日本産タモロコ属魚類の遺伝的分化と集団構造
○柿岡　諒（京大院理）・小北智之（福井県立大）・森　誠一（岐阜経済大）・渡辺勝敏（京大院理）

7　10:45 −　アブラボテ類 4 種の腸の形態
○山野ひとみ（近大院農）・金　治弘（韓国水産院）・細谷和海（近大院農）

午後の部　14:00 − 15:15

（分類・系統・分子遺伝・分布・魚類相：コイ目・サケ目・タラ目・アシロ目）

8　14:00 −　ミトコンドリア DNA 塩基配列データに基づく，東海および北陸地方のカワムツの遺伝的集団構造
○田中　靖（愛媛大院連合農）・関　伸吾（高知大農）

9　14:15 −　三重県天然記念物ジンダイドジョウの純粋集団の絶滅
○北川忠生・後藤良平・藤本陽介・三河内伸一郎・松田貴之・米原さとみ（近大農）・
藤井洋太（近大院農）

10　14:30 −　ヤマメ，アマゴの分布境界付近での出現
○川嶋尚正・後藤裕康（静岡水技研）

11　14:45 −　南半球に分布するメルルーサ科底魚の地理的に離れた 2 集団間で見られた小さな遺伝的差異
○武島弘彦（東大大気海洋研）・畑中晃昌・山田彰一（日水中研）・山崎裕治（富山大）・
木村郁夫（鹿児島大）・西田　睦（東大大気海洋研）

12　15:00 −　土佐湾から採集されたアシロ科シオイタチウオ属魚類の一未記載種
○大橋慎平（北大院水産）・Jørgen NIELSEN（コペンハーゲン大動物博）・矢部　衞（北大院水産）

休憩　15:15 − 15:30

午後の部　15:30 － 16:45（分類・形態・分子遺伝：ダツ目・カサゴ目・スズキ目）

13　15:30 －　ヒメダカ原因遺伝子 *Slc45a2* を用いた奈良県大和川水系のメダカ集団の解析
○中井宏施・中尾遼平（近大院農）・深町昌司（日本女子大理）・小山直人・北川忠生（近大院農）

14　15:45 －　メダカ南北集団間に見られた形態的差異
○朝井俊亘（近大院農）・安永道平（日大生資）・瀬能　宏（神奈川県博）・細谷和海（近大院農）

15　16:00 －　沖縄島および西表島から採集されたハタンポ属の未記載種
○小枝圭太（琉大院理工）・吉野哲夫・今井秀行・立原一憲（琉大理）

16　16:15 －　ミノカサゴ亜科ヒメヤマノカミ属 *Dendrochirus* の分類学的再検討
○松沼瑞樹（鹿大連農）・本村浩之（鹿大総博）

17　16:30 －　日本産キホウボウ科キホウボウ属魚類の分類学的再検討
○大野　誠（北大院水産）・河合俊郎（北大総合博）・矢部　衞（北大院水産）

9月25日（土）

午前の部　9:00 － 10:30（分類・分子遺伝：カサゴ目）

18　9:00 －　オーストラリアから採集されたマゴチ属の一種の分類学的研究
今村　央（北大院水産）

19　9:15 －　ハリゴチ科 *Hoplichthys regani* ハリゴチの有効性
○永野優季・今村　央・矢部　衞（北大院水産）

20　9:30 －　茨城県沖から採集されたカジカ科ソコカジカ属の未記載種
○稲川亮・成松庸二（東北水研）

21　9:45 －　カジカ科ニジカジカ *Alcichthys* 属魚類は 1 種か？
○多田知世（北大院水産）・武藤文人（遠洋水研）・
Dmitry PITRUK（ロシア科学アカデミー）・矢部　衞（北大院水産）

22　10:00 －　長崎県本明川におけるカジカの遺伝的組成と成長速度
○村岡敬子（独法土研）・中山雅文（国土交通省）・宮島泰志（建設技研九州）・山下慎吾・
三輪準二（独法土研）

23　10:15 －　ミトコンドリア DNA およびマイクロサテライト DNA を用いたカジカ種群の網羅的系統解析
○塚越英晴（北大院水産）・横山良太・後藤　晃（北大 FS セ）

休憩　10:30 － 10:45

午前の部　10:45 － 12:00（分類・分子遺伝：カサゴ目・スズキ目）

24　10:45 －　バイカルカジカ類の水深に応じた適応放散：*Procottus* 属 4 種の分子系統
○横山良太（北大 FSC）・シデレワ V. G.（ロシア科学アカデミー）・高橋　洋（水大校）・
宗原弘幸（北大 FSC）・木下　泉（高知大海洋研）・後藤　晃（北大 FSC）

25　11:00 －　2 未記載種を含むインド洋－西太平洋域におけるクロサギ科魚類のレビュー
○岩槻幸雄（宮崎大農）・木村清志（三重大水実）・吉野哲夫（琉球大理）・
ジョン　ポゴノスキ・ピーター　ラスト（CSIRO）

26　11:15 －　タイ科セナガキダイ属 *Cheimerius* ホシレンコ *Cheimerius matsubarai* の属の再検討
○田中文也（宮崎大院農）・岩槻幸雄（宮大農）

27　11:30 －　タンガニイカ湖産カワスズメ科魚類 *Chalinochromis* 属の分類学的再検討
○田城文人（北大院水）・仲谷一宏（北大）・矢部　衞（北大院水）

28　11:45 －　タンガニイカ湖産カワスズメ科魚類 *Neolamprologus modestus* 種群の分類学的再検討
○岡田亮平（北大院水産）・仲谷一宏（北大）・矢部　衞（北大院水産）

午後の部　13:30 − 15:00（分類・分子遺伝・分布：スズキ目）

29　13:30 −　集団遺伝構造からみるルリスズメダイの地理的色彩変異
　　○岩本健輔（琉球大院理工）・佐久川尚樹（琉球大理）・張　至維（台湾海洋生物博物館）・竹村明洋・今井秀行（琉球大理）

30　13:45 −　トラギス科トラギス属 *Parapercis elongata* の分類学的位置付け
　　○山中智之・今村　央（北大院水産）・吉野哲夫（琉球大理）

31　14:00 −　瀬戸内海西部海域におけるキセルハゼ *Gymnogobius cylindricus* の水系スケールでの分布パターンに影響を及ぼす環境要因
　　○乾　隆帝（九大院農）・江口勝久（佐賀玄海セ）・中島　淳（福岡保環研）・鬼倉徳雄（九大院農）

32　14:15 −　宍道湖・中海水域から得られたシンジコハゼとビリンゴの仔稚魚の形態と出現様式
　　○横尾俊博・堀之内正博・荒西太士（島根大汽水研）

33　14:30 −　日本産チワラスボ種群（ハゼ科，チワラスボ属）の分類学的再検討
　　○栗田隆気（琉球大院理工）・吉野哲夫（琉球大理）

34　14:45 −　琉球列島で観察および採集されたナンヨウボウズハゼ属の未記載種
　　○前田　健（OIST・琉大理）・山崎　望（宮古島市在住）・立原一憲（琉大理）

休憩　15:00 − 15:15

午後の部　15:15 − 17:00（分類・分子遺伝・分布：スズキ目・カレイ目・フグ目・ほか）

35　15:15 −　マグロ属魚類頭蓋骨化石と現生種における形態比較
　　○長田暁子・北川貴士（東大院新領域）・昆　健志（東大大気海洋研）・上野輝彌（国立科博）・木村伸吾（東大院新領域）

36　15:30 −　ニューカレドニア沖から採集された1未記載種を含むベロガレイ科ツキノワガレイ属魚類
　　○尼岡邦夫（北大）・河合俊郎（北大総合博）

37　15:45 −　AFLP 法および mtDNA 塩基配列解析によるサバフグ属 7 種の属内系統関係
　　三好博之・高橋洋・○酒井治己（水大校）・土井啓行（下関水族館）・望岡典隆（九大院農）・小早川みどり（九大院システム生命）・佐藤　繁（北里大水産）・佐藤　崇・松浦啓一（国立科博）

38　16:00 −　南・東南アジア産淡水性フグ科魚類 *Tetraodon cutcutia* の分類学的再検討
　　プラチヤー　ムシカシントーン（カセサート大）

39　16:15 −　分子遺伝学的解析による琵琶湖産固有魚種の起源に関する考察
　　○田畑諒一・小宮竹史・柿岡　諒・渡辺勝敏（京大院理）

40　16:30 −　屋久島南西部における岩礁性タイドプールの魚類群集構造
　　○村瀬敦宣・須之部友基（海洋大館山ス）

41　16:45 −　Cuvier と Valenciennes が日本産魚類の記載に使用した日本の資料について
　　○滝川祐子（香川大農）・吉野哲夫（琉球大理）

口頭発表第 2 会場（小ホール）

9 月 24 日（金）

午前の部　9:15 − 11:00（保全）

42　9:15 −　奄美リュウキュウアユの遺伝的ステータス
　　○井口恵一朗（中央水研）・武島弘彦・西田　睦（東大大気海洋研）

43　9:30 −　徳島県を中心としたオヤニラミの遺伝的集団構造
　　○清水孝昭（愛媛水研セ）・佐藤陽一（徳島研博）・高木基裕（愛大南水研セ）

44　9:45 −　岐阜県神通川水系小鳥川におけるブラウントラウトの定着
　　○石崎大介（三重大院生資）・谷口義則（名城大理工）・淀　太我（三重大院生資）

45　10:00 −　九州のダムに生息するハスの出現パターンと産卵環境
　　○井原高志・乾　隆帝・大畑剛史・鬼倉徳雄（九大院農）

46　10:15 －　ダム貯水池の水位低下操作を利用したブルーギル *Lepomis macrochirus* の防除手法
○大杉奉功・岩見洋一（ダム水源セ）・熊澤一正・纐纈　渉（応用地質）・
中澤重一（国交省三春ダム）

47　10:30 －　三重県南部の 2 河川へのカワヨシノボリの侵入と在来ヨシノボリ類への影響
○淀　太我・佐藤達也・石崎大介・小原大昇（三重大院生資）

48　10:45 －　北海道固有希少淡水魚の種苗生産についての試み
○松原　創・久原悠生・岩田大介・清水征晴・鈴木崇正・川崎琢真・吉川明花・今井拓人・
堀江好文・千葉文香（東京農大アクア）・市村正樹（標津サーモン）・
白井　滋（東京農大アクア）

午後の部　14:00 － 15:15 （生態・保全）

49　14:00 －　富山県氷見市万尾川水系におけるイタセンパラ仔稚魚の出現パタン
○西尾正輝（氷見市教委）・山崎裕治（富山大院理工）・江戸謙顕（文化庁記念物課）

50　14:15 －　托卵種ムギツクは人為移殖されたオヤニラミに托卵するか？
○山根英征・楳田修平・富永浩史・渡辺勝敏（京大院理）

51　14:30 －　絶滅危惧種エゾホトケドジョウ生殖腺の季節変化
○鈴木崇正・松原　創・清水征晴・川崎琢真・吉川明花・今井拓人・久原悠生・岩田大介・
白井　滋（東京農大アクア）

52　14:45 －　沖縄島における外来種グッピーの環境による繁殖特性の変異
○塩見聡史（琉大院理工）・立原一憲（琉大理）

53　15:00 －　湖内にすむビワマスはなぜアマゴから遺伝子浸透を受けていないのか？
○桑原雅之（琵琶博）・井口恵一朗（中央水研）・高橋　洋（水大校）・亀甲武志（滋賀県）・
来見誠二（今津中）

休憩　15:15 － 15:30

午後の部　15:30 － 16:45（生態）

54　15:30 －　カジカ科魚類における雄の生殖形質と生殖様式の関係
○古屋康則（岐阜大教育）・早川洋一（ICU アートサイエンス）・阿部拓三（北大水産）・
Alexander MARKEVICH（Russian Acad. Sci.）・矢部　衞（北大水産）・宗原弘幸（北大 FS セ）

55　15:45 －　コブフウセンウオの産卵習性
○阿部拓三（北大院水産）・和田年史（鳥取県博）

56　16:00 －　独身雄の逆方向性転換：一夫多妻の雌性先熟魚における野外操作実験
○桑村哲生・門田　立（中京大国際教養）・鈴木祥平（沖縄科学技術研）

57　16:15 －　沖縄島におけるコトヒキの年齢，成長および成熟
○吉田雅哉（琉大院理工）・立原一憲（琉大理）

58　16:30 －　和歌山県太田川における両側回遊魚ボウズハゼの繁殖生態
○飯田　碧・渡邊　俊・塚本勝巳（東大大気海洋研）

9 月 25 日（土）

午前の部　9:00 － 10:30（生態・行動）

59　9:00 －　角舌軟骨の力学解析に基づくメガマウスザメ *Megachasma pelagios* の摂食行動の推定
○冨田武照（東大院理）・佐藤圭一（沖縄水）・須田健太・川内惇郎（北大院水産）・
仲谷一宏（北大）

60　9:15 －　ミツクリザメの摂餌行動
○仲谷一宏（北大）・須田健太・大野　誠（北大院水産）・佐藤稔彦・高野克彦（NHK）

61　9:30 －　亜熱帯域の河川に生息するリュウキュウアユの摂餌なわばりと多様な行動様式
○安房田智司・鶴田哲也・阿部信一郎・玉置泰司・井口恵一朗（中央水研）

62　9:45 －　飼育下におけるマルアオメエソの発光観察
○藤井千春（岩手県博）・山内信弥（アクアマリンふくしま）・猿渡敏郎（東大大気海洋研）

63　10:00 ー　フグ目の稀種ウチワフグ *Triodon macropetrus* の水中観察
○松浦啓一（国立科博）・金子篤史（美ら海水族館）

64　10:15 ー　日本産イトヨ類における行動特性の多様化：太平洋型における生態型間・生態型内比較
○小北智之・石川亜由実（福井県立大）・森　誠一（岐阜経済大）

休憩　10:30 ー 10:45

午前の部　10:45 ー 12:00（生態・行動）

65　10:45 ー　ハゼ亜目仔魚の遊泳能力と行動
○近藤　正（琉大院理工）・前田　健（OIST・琉大理）・山崎　望（宮古島市在住）・立原一憲（琉大理）

66　11:00 ー　ブルーギルの成長に伴う視軸の変化と食性との関係
○五味勇気（千葉水総研）・宮崎多恵子・河村功一（三重大院生資）

67　11:15 ー　琉球列島周辺海域から得られたミズウオの食性
○山内　岬（琉大院理工）・余川浩太郎・竹内幸夫（遠洋水研）・立原一憲（琉大理）

68　11:30 ー　イワナ，ヤマメの離乳食はどのような川に多いのか？
中村智幸（水研センター）

69　11:45 ー　魚類の体表粘液の安定同位体比：分別率，応答速度，および活用法
○丸山　敦・下仲洋行・伊藤琢哉（龍谷大学理工）

午後の部　13:30 ー 15:00（生態・保全・資源）

70　13:30 ー　胃内容に見られる珪藻の種組成からシクリッド魚類のマイクロハビタットを推定する
○篠原耕平（龍谷大院）・丸山　敦（龍谷大学理工）・大塚泰介（琵琶湖博物館）

71　13:45 ー　日本近海におけるクロマグロ当歳魚の食性
○下瀬　環（西海水研石垣）・渡邉　光・田邉智唯（遠洋水研）・窪寺恒己（国立科博）

72　14:00 ー　谷戸池におけるホトケドジョウの生態と生物相
○勝呂尚之（神奈川水技セ内）・細谷和海（近大院農）

73　14:15 ー　スジハゼ類 3 タイプの生息環境
○松井彰子（京大フィールド）・乾　隆帝（九大院農）・上野正博・山下　洋（京大フィールド）

74　14:30 ー　相模川におけるアユ資源変動要因に関する検討
高村正造（神奈川県水産課）

75　14:45 ー　水路におけるカワバタモロコの生活史および個体群動態とため池個体群との比較
○鈴木規慈（三重大院生資）・畠山絵美（三重大院生資 / こうすい）・原田泰志（三重大院生資）

休憩　15:00 ー 15:15

午後の部　15:15 ー 16:45（生態）

76　15:15 ー　長良川における天然アユと放流種苗の成長特性
○間野静雄・淀　太我・吉岡　基（三重大院生資）

77　15:30 ー　Fs-LA-ICP-MS の微量元素分析から明らかになったボウズハゼ属 3 種の淡水生息域利用の変異
○ロード クララ（東大大気海洋研）・Hélène TABOURET・Christophe PECHEYRAN（LCABIE, PAU, FRANCE）・Philippe KEITH（MNHN, Paris, FRANCE）・塚本勝巳（東大大気海洋研）

78　15:45 ー　魚の移動を寄生虫から探る―ウナギを用いた事例
○片平浩孝・水野晃秀・海野徹也・長澤和也（広大院生物圏）

79　16:00 ー　魚類の代謝コストを抑えるシェルターの効果とそれに影響を与えるシェルター競争者の存在
○松崎慎一郎（国環研）・坂本正樹（富山県大）・高村典子（国環研）

80　16:15 ー　実験池においてブルーギルが 2 種の在来魚の個体数に及ぼした 6 年間の影響
○片野　修・中村智幸・山本祥一郎（中央水研）

81　16:30 ー　オオクチバスがため池魚類群集に与える影響
○渡邊　俊・東　信行（弘前大院農生）

ポスター発表

（ポスターは発表初日の 9 月 24 日午前 8 時 45 分から 9 時 15 分の間に指定の場所に貼附し，2 日間掲示する．偶数演題のコアタイムは 9 月 24 日 13:00 − 14:00，奇数演題は 9 月 25 日 12:30 − 13:30．）

ポスター発表会場（第 1 ギャラリー）

82 インド洋ソマリア沖から採集されたトラザメ科ヘラザメ属の未記載種
○川内惇郎（北大院水産）・仲谷一宏（北大）・矢部　衞（北大院水産）

83 シロシュモクザメの子宮および卵殻腺から見つかった精子
○松本瑠偉（沖縄美ら海）・戸田　実（海洋博研セ）・内田詮三（沖縄美ら海）

84 茨城県沖から採集されたガンギエイ科ソコガンギエイ属の 1 未記載種
○奥野哲史（北大院水産）・仲谷一宏（北大）・矢部　衞（北大院水産）

85 東アジア海域におけるソトイワシ科ソトイワシ属 *Albula argentea* 種群の 1 未記載種
○日高浩一（西海水研）・岩槻幸雄（宮崎大農）

86 日本産コイ科魚類オイカワ，カワムツ，ヌマムツの骨学的研究
○宮田真也（早大院創造理工）・籔本美孝（北九州自然史博）・平野弘道（早大・教育）

87 緑川水系におけるイチモンジタナゴの分布パターン
○大畑剛史・大浦晴彦・乾　隆帝（九大院農）・中島　淳（福岡県保環研）・鬼倉徳雄（九大院農）

88 “琵琶湖”適応遺伝子の探索：タモロコ属ペア種を用いた比較トランスクリプトーム解析
○熊田裕喜（福井県立大）・奥田　昇（京大生態研）・小北智之（福井県立大）

89 日本および周辺地域におけるツチフキの系統地理－深い系統分岐と人為移殖による遺伝的攪乱
○張廖年鴻・富永浩史（京大院理）・張　春光・趙　亜輝（中科院動物所）・
中島　淳（福岡県保環研）・鬼倉徳雄（九大院農）・田　祥麟（ソウル）・渡辺勝敏（京大院理）

90 ミトコンドリアゲノム全長配列に基づくタニノボリ科タニノボリ亜科の分子系統解析
○佐土哲也（千葉中央博）･斉藤憲治（中央水研）･西田　睦（東大大気海洋研）･宮　正樹（千葉中央博）

91 アユモドキの遺伝的集団構造と有効集団サイズ
○渡辺勝敏（京大院理）・阿部　司（岡淡研・ラーゴ）・岩田明久（京大院 AA）

92 土佐湾から採集されたニギス属の 1 未記載種
○遠藤広光（高知大理）・梨田一也（中央水研）

93 九州の各河川上流域に生息する導入イワナ *Salvelinus leucomaenis* の繁殖実態と遺伝的特徴，および九州と四国における自然分布の可能性のあるイワナ
○川上　恵（宮崎大院農）・岩槻幸雄（宮崎大農）・関　伸吾（高知大農）

94 土佐湾と九州－パラオ海嶺から得られたハダカイワシ属の 1 未記載種
○清沢遼太朗・遠藤広光（高知大理）

95 駿河湾から採集された日本初記録のアシロ科魚類 *Bassozetus glutinosus* と *B. robustus*
○高見宗広（東海大院生物）・冨山晋一（東海大海洋博）・福井　篤（東海大海洋）

96 棘鰭上目に相同的なマイクロサテライト座位の探索とその利用
○後藤　亮（山形大院理工）・玉手智史・半澤直人（山形大理）

97 高知県で採集されたヨウジウオ科 4 種の記録
○高田陽子（国立科博）・片山英里・松野靖子・遠藤広光（高知大理）

98 岩手県宮古市周辺におけるキツネメバルとタヌキメバルの形態比較
○武藤望生（京大院農）・甲斐嘉晃（京大 FSERC）・野田　勉（水研セ宮古）・中坊徹次（京大総博）

99 オーストラリアに分布するオニオコゼ科魚類の有効種 *Inimicus cirrhosus* McKay, 1964
○荻原豪太（鹿大連大）・本村浩之（鹿大総博）

100 東シナ海から採集されたホウボウ科カナガシラ属魚類の 1 未記載種
○大野明宏（北大院水産）・河合俊郎（北大総合博）・矢部　衞（北大院水産）

101 *Peristedium indicum* Brauer, 1906 はハナビロキホウボウ *Paraheminodus murrayi* (Günther, 1880) の新参シノニム
河合俊郎（北大総合博）

102 アイナメ属魚類における野外採集雑種と人工交配雑種に見られた遺伝様式の違い
○堀田海帆（北大院環）・木村幹子（東北大生命科学）・宗原弘幸（北大 FS セ）

103 ミトコンドリアゲノム調節領域からみた全国のカマキリの遺伝的多様性と集団構造
○石黒直哉・水野剛志（福井工大工）・田原大輔（福井県大海洋）

104 クサウオ科魚類の系統進化学的研究：ミトコンドリアゲノム全長配列からのアプローチ
○佐藤　崇（国立科博）・宮　正樹・佐土哲也（千葉中央博）・
Peter R. MØLLER（Copenhagen Univ.）・James W. ORR（Burke Museum）・西田　睦（東大大気海洋研）

105 ルリハタ属 *Aulacocephalus schlegelii* の有効性
Teguh PERISTIWADY（LIPI, Bitung）・○木村清志（三重大水実）・
James MACLAINE（Natural History Museum, London）

106 mtDNA および AFLP マーカーに基づくオヤニラミの系統地理分析
○ 高橋　洋・杉田智彰（水大校）・渡辺勝敏（京大院理）

107 鹿児島県から得られたテンジクダイ科スカシテンジクダイ属の 1 未記載種
○吉田朋弘（鹿大院水産）・馬渕浩司（東大大気海洋研）・本村浩之（鹿大総博）

108 テンジクダイ科の分子系統と“テンジクダイ属”の非単系統性
○馬渕浩司（東大大気海洋研）・Thomas FRASER（Mote Marine Lab.）・東　陽一郎（東京都精神研）・
西田　睦（東大大気海洋研）

109 タイ科ミオスタチン遺伝子プロモーター領域の構造
○ Eman ABBAS（大阪府大院理）・高柳　淳（慶應大医分子生物・先導研 GSP セ）・
清水信義（慶應大先導研 GSP セ）・加藤幹男（大阪府大院理）

110 南日本から得られたヒメジ科ヒメジ属の 1 未記載種
○山下真弘（鹿大院水産）・Daniel GOLANI（HUJ）・本村浩之（鹿大総博）

111 日向灘海域で採集された 2 種類のウミヒゴイ属魚類
○山根あゆみ（宮崎大院農）・岩槻幸雄（宮崎大農）

112 ベラギンポ科魚類における類縁関係と形態形質
○片山英里（高知大理）・佐藤　崇（国立科博）・遠藤広光（高知大理）

113 浅海性ゲンゲ科魚類イワゲンゲ *Hadropareia middendorffii* Schmidt, 1904 の形態学
○篠原現人（国立科博）・Mikhail NAZARKIN（ロシア科学アカデミー）

114 キタガワヘビゲンゲ *Lycenchelys tohokuensis* の骨学的研究
○山本みつ美・今村　央・矢部　衞（北大院水産）

115 Taxonomy of *Lycodes teraoi* Katayama, 1943 (Pisces: Zoarcidae) with a comment on its systematic position
○ Mikhail NAZARKIN（RAS）・篠原現人（国立科博）

116 西部・中部太平洋から採集されたクロボウズギス科の仔稚魚
○伴　和幸（東海大院海洋）・福井　篤（東海大海洋）・張　成年（水研セ中央水研）

117 ミシマオコゼ科魚類の眼下骨の比較形態学的研究
○ Vilasri VEERA・今村　央・矢部　衞（北大院水産）

118 ハゼ科魚類 2 亜科 4 種の側線系とその神経支配
○朝岡　隆（高知大学院理）・佐々木邦夫（高知大学理）

119 シラスウオ属 (*Schindleria*) 魚類の卵における付着装置の多様性
○原　政子・昆　健志（東大大気海洋研）・仲村茂夫（琉大熱性研）・西田　睦（東大大気海洋研）

120 静岡県におけるヌエハゼの分布と生息環境
○荒尾一樹（環境科学研究所）・北原佳郎（環境アセス）・森口宏明（日本総研）

121 日本およびパラオ産“スナハゼ”の隠蔽種
○昆　健志（東大大気海洋研）・坂上治郎（サザンマリンラボラトリー）・鈴木寿之（兵庫川西緑台高）

122 山形県庄内地方におけるジュズカケハゼの遺伝的集団構造
○千葉　悟（山形大理）・掛橋竜佑（広島大両生類研）・鈴木康之（月光川の魚出版会）・
半澤直人（山形大理）

123 サバ科魚類マサバ，サワラおよびクロマグロの比較機能形態学
○中江雅典・篠原現人・松浦啓一（国立科博）・佐々木邦夫（高知大理）

124 鹿児島県から得られた日本初記録のダルマガレイ科魚類 *Crossorhombus valderostratus*
○大橋祐太・四宮明彦（鹿大水産）・伊東正英・本村浩之（鹿大総合博）

125 マラッカ海峡から採集されたウシノシタ科イヌノシタ属の 1 未記載種
○長尾太地・今村　央・矢部　衞（北大院水産）

126 AFLP 法および mtDNA 塩基配列解析によるイシガキフグ属魚類種間雑種の遺伝分析
土井啓行・○玉井健太（下関水族館）・善家裕太朗・高橋　洋・酒井治己（水大校）・
石橋敏章（下関水族館）

127 九州北部の農業用水路にみられる純淡水魚類相
○鬼倉徳雄（九大院農）・中島　淳（福岡県保環研）・向井貴彦（岐阜大）・福田信二（九大熱研セ）

128 日本海南西部の魚類相とその特徴
○甲斐嘉晃（京大 FSERC）・中坊徹次（京大総博）

129 伊勢湾西岸における砕波帯の仔稚魚相
○小原大昇（三重大院生資）・津本欣吾（三重県水研）・淀　太我・吉岡　基（三重大院生資）

130 種やサイズによる採捕効率の差と，その個体数推定精度への影響
○金岩　稔・中野厚美・山本敦也（東農大）

131 網走川水系上流域の魚類における生息適地を決定する環境要因
○田端晃多・金岩　稔・山本敦也（東農大）

132 大分県沿岸において新たに確認された海産魚
○星野和夫（大分うみたまご）・石田　淳（別府市在住）・立川淳也（番匠おさかな館）

133 黒松内低地帯の魚類の分散障壁としての可能性
○宮崎佑介・照井　慧（東大院農）・畑井信男（朱太川漁協）・齋藤　均（黒松内ブナセ）・
高橋興世（黒松内町）・鷲谷いづみ（東大院農）

134 リュウキュウドロクイ仔稚魚の出現と形態—沖縄の食卓に並ぶ“いまいゆ”
○上原（堀）匡人（琉球大院理工）・立原一憲（琉球大理）

135 小支流におけるヤマメ稚魚の生息環境
○田中友樹・芦沢　淳・丸山　隆（海洋大）

136 三陸沖に来遊するマンボウ属 2 種の出現パターンの相違と水温の関係
○澤井悦郎（広大院生物圏）・山野上祐介（東大大気海洋研）・坂井陽一・橋本博明（広大院生物圏）

137 炭素・窒素安定同位体比及び微量元素を用いた農業用水系に生息する魚類の移動履歴の検討
○古跡直樹（弘前大院農生）・渡邉　泉（東京農工大農）・東　信行（弘前大院農生）

138 安定同位体比による琵琶湖内のウツセミカジカの移動解析
河田新平・○田原大輔（福井県大）・丸山　敦（龍谷理工）

139 バイオテレメトリーを用いた圃場整備後の小河川におけるナマズの生態の解明
○森　晃（宇大院農）・吉田　豊（栃木水試）・水谷正一・後藤　章（宇大農学）

140 宮崎県の五十鈴川における両側回遊魚の遡上に関する研究
○甲斐史文（宮崎大院農）・神田　猛（宮崎大農）

141 メコン川支流に建設されたパクムンダムの開門がもたらす回遊性淡水魚類へのベネフィットについて
○ Pisit PHOMIKONG（UBU）・福島路生（国環研）・Tuantong JUTAGATE（UBU）

142 メコン川に生息するコイ科魚類 Siamese mud carp の回遊生態について
○福島路生（国環研）・Tuantong JUTAGATE・Chaiwut GRUDPAN（Ubon Ratchathani University）・
野原精一（国環研）

143 タイ国トラン沿岸域の海草藻場に生息する魚類の食性
○堀之内正博（島大汽セ）・Prasert TONGNUNUI（RUT）・南條楠土・中根幸則（東大院農）・
中村洋平（高知大院黒潮）・加納光樹（茨城大広域水圏セ）・山口敦子（長崎大水産）・岡本　研・
佐野光彦（東大院農）

144 瀬戸内海周防灘における干潟のアサリ資源の激減がイシガレイ資源へ及ぼした影響
○重田利拓・薄　浩則・内田基晴・三好達夫（瀬戸内水研）

145 X 線画像によるカクレウオ科 2 種の知見
○園山貴之・進藤英朗・徳田大輔・土井啓行・石橋敏章（下関水族館）

146 二次性深海魚 *Malacocottus gibber* の表層環境における飼育
○鶴若祐介・矢島好文・大田ゆかり・秦田勇二（JAMSTEC）

147 アマゴにおける漁場内での再生産 , 上流からの流下 , 発眼卵放流の資源維持への貢献度評価
○寺尾智哉・河部友彦・水野嘉中・山田英幸（三重大生資）・佐藤拓哉（京大フィールド科学セ）・原田泰志（三重大生資）

148 塩性湿地に造成した感潮池における魚類と甲殻類の出現パターン
○加納光樹（茨城大水圏セ）・中山聖子・多留聖典（東邦大東京湾セ）・柚原　剛（東邦大）・岡崎大輔・河野　博（海洋大）・小林　光（自然研）

149 在来種サクラマス生息下における外来種ブラウントラウトの定着メカニズム—競争劣位であるブラウン稚魚が生き延びる理由—
○長谷川功（さけますセンタ）・山崎千登勢（北大環境科学院）・大熊一正・伴　真俊（さけますセンタ）

150 飼育実験におけるウナギ *Anguilla japonica* の人口巣穴の選択性
○井上知成・後藤寛史・舘野紗也加・赤川　泉（東海大海洋）

151 シワイカナゴではどんな雄が縄張りを形成するか　－餌条件を与えた場合－
○成田英毅（東海大院海洋）・赤川　泉（東海大海洋）

152 水温上昇に伴うカジカ大卵型の成長特性の変化と死亡
○村元寛子（弘前大院農生）・伊藤　忍（東京都建設局）・東　信行（弘前大院農生）

153 ネコザメの呼吸方法 : ネコザメは鼻からも呼吸する？
○戸田　実・植田啓一（海洋博研セ）・内田詮三（美ら海水族館）

154 Is there advantageous in adopting optimal clutch size in Isaza (*Gymnogobius isaza*)?
○Omar MYINT・幸田正典（大市大理）

155 琵琶湖及び伊庭内湖におけるホンモロコの産卵期間と卵サイズの変化
○亀甲武志・三枝　仁・臼杵崇広・藤岡康弘（滋賀水試）・甲斐嘉晃（京大フィールド研）

156 希少淡水魚ゼニタナゴの繁殖生態と生活史
○松井亜希子（宇大院・教育）・北村淳一（三重県博）

157 オヤニラミの餌資源利用
○楪田修平・渡辺勝敏（京大院理）

158 カジカ大卵型の餌料選択性における水系内変異
○棗田孝晴（千葉科学大危管）・鶴田哲也（中央水研）・武島弘彦（東大大気海洋研）・安房田智司・井口恵一朗（中央水研）

159 北浦の沿岸帯におけるヌマチチブ仔稚魚の生息場所利用パターン
○百成　渉・碓井星二・加納光樹・中里亮治（茨城大水圏セ）・荒山和則（茨城内水試）

160 河川に生息する希少ミミズハゼ属魚類の生息環境とその保全
○金川直幸（静岡高校）・國領康弘・板井隆彦（静岡淡水魚研究会）

161 大淀川水系浦之名川におけるアリアケギバチの生息域の縮小と生息環境の現状
神田　猛・○福岡亮輔・勘米良祥多（宮崎大農）

162 石狩川におけるカワヤツメの産卵場特性 : 深度依存的な産卵場選択と保全に向けた提言
○白川北斗（北大水産）・柳井清治（石川県大）・後藤　晃（北大 FS セ）

163 広域スケールにおけるタナゴ類の種構成の空間パターン
諸澤崇裕（筑波大生命環境）

164 鈴鹿川水系の特定流域内におけるカワバタモロコの生息状況と再導入計画の立案
○上野篤史・鈴木規慈・原田泰志（三重大生物資源）

165 水田を利用したホンモロコの初期育成
亀甲武志・○根本守仁・三枝　仁・藤岡康弘（滋賀水試）・甲斐義晃（京大フィールド研）

166 農法が異なる 4 タイプの水田におけるドジョウ（*Misgurnus anguillicaudatus*）個体群の利用状況の比較
○田和康太・中西康介・村上大介（滋賀県大院環境）・西島加奈・蒲原　漠（滋賀県大環境）・金尾滋史（多賀町博）・沢田裕一（滋賀県大環境）

167 木曽川ワンド群の冬季魚類群集に環境要因が及ぼす影響
○久米　学（土研自然共生セ）・根岸淳二郎（北大院環境科学）・佐川志朗・宮下哲也（土研自然共生セ）・青木繁幸（岐阜土木事務所）・大森徹治（中部地方整備局）・真田誠至・萱場祐一（土研自然共生セ）

168 滋賀県が実施する「魚のゆりかご水田」において中干し時に流下してきた魚類
○金尾滋史（多賀町立博）・舟尾俊範・田和康太（滋賀県大院環境）・硲登志之（琵琶湖博）・堀　明弘（滋賀県農村振興課）・野田尚子（湖東農業農村振興事務所）・前畑政善（琵琶湖博）・沢田裕一（滋賀県大環境）

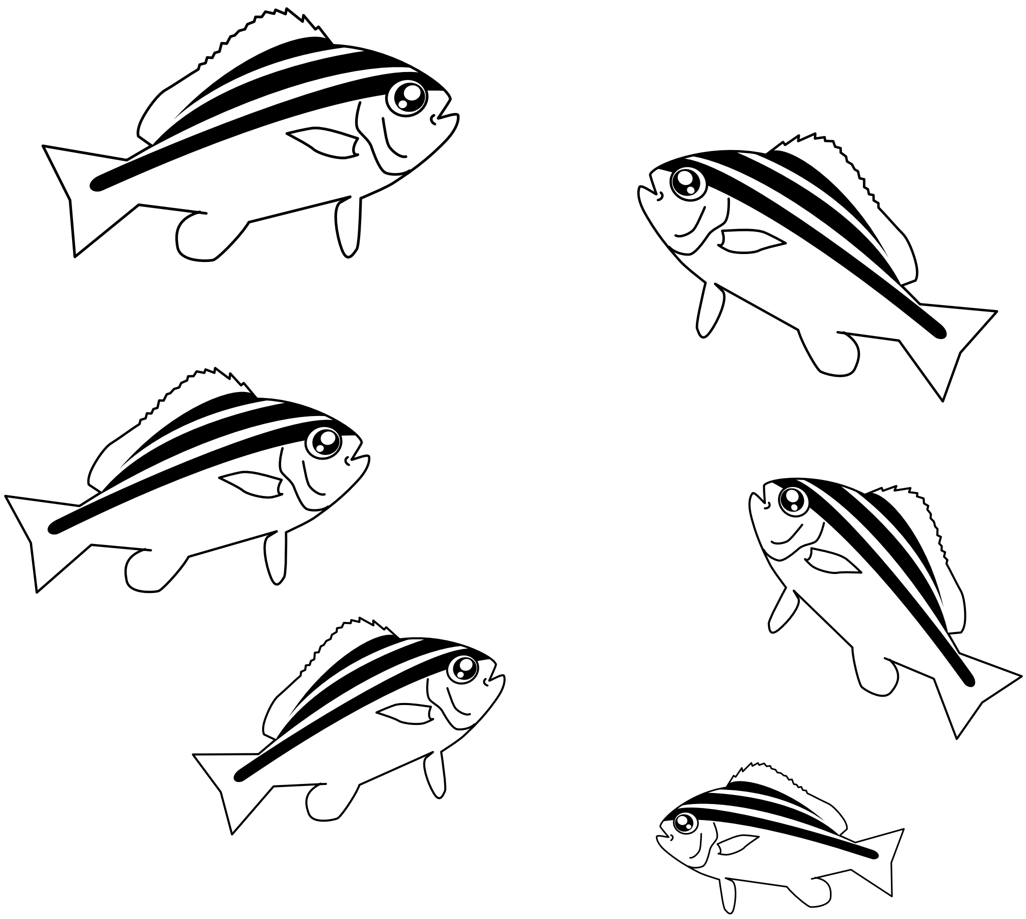
169 都心水辺緑地に生息する淡水魚の由来　－遺伝的解析と保全への示唆－
高村健二（国立環境研）

170 外来魚を取り除いた溜め池における在来魚類及びアメリカザリガニの個体数変動
○飯田涼介（名城大院理工）・吉鶴靖則・大畑孝二（日本野鳥の会）・谷口義則（名城大理工）

171 河川改修が魚類群集に及ぼす影響
○田中哲夫（兵庫県大）・信本　励（水棲堂）

172 利根川河口堰の上流側と下流側の魚類群集構造
○碓井星二・加納光樹・百成　渉・中里亮治（茨城大水圏セ）・荒山和則（茨城内水試）

173 本明川に生息するカジカ中卵型の移植実験の効果検証
○宮島泰志・安形仁宏・宮崎　太（建設技研九州）・中山雅文（国土交通省）・村岡敬子・山下慎吾（独法土研）



2010 年度日本魚類学会シンポジウム

会　　　　場：三重県文化会館　小ホール
日　　　　時：2010 年 9 月 26 日（日）9:30 – 16:30

黒潮と日本の魚類相：ベルトコンベヤーか障壁か

The role of the Kuroshio Current in the formation of fish fauna in the Japanese Archipelago

コンビーナー：松浦啓一（国科博）・瀬能　宏（神奈川県博）・木村清志（三重大水実）

1.	9:30 － 9:40	趣旨説明とこれまでの経緯 松浦啓一（国科博）
2.	9:40 － 10:10	画像データベースを利用した黒潮流域の沿岸魚類相の比較 瀬能　宏（神奈川県博）
3.	10:10 － 10:40	高知県沿岸の魚類相 遠藤広光（高知大理）
4.	10:40 － 11:10	黒潮前線に位置する屋久島の特異的な魚類相 本村浩之（鹿大総博）
5.	11:10 － 11:40	熱帯島嶼性魚類の両側回遊：ボウズハゼを例として ○渡邊 俊・飯田　碧・塚本勝巳　(東大大気海洋研)
6.	11:40 － 12:10	黒潮による分断と種分化－トウゴロウイワシ科を例にして－ ○木村清志・笹木大地（三重大水実）
	12:10 － 13:10	休憩（昼食）
7.	13:10 － 13:40	東アジアにおけるキチヌの外部形態と遺伝的集団構造 ○岩槻幸雄（宮大農）・千葉　悟（山形大理）
8.	13:40 － 14:10	障壁としての黒潮の効果－クサフグとカエルウオの例－ 吉野哲夫（琉大理）
9.	14:10 － 14:40	西部太平洋域におけるアカハタ遺伝的集団構造の歴史的成り立ち 栗岩　薫（国科博）
	14:40 － 15:00	休憩
10.	15:00 － 15:30	極端な幼形進化を示すシラスウオ属魚類の分子系統地理 昆　健志（東大大気海洋研）
11.	15:30 － 16:00	マンボウ属各種の特徴と生物地理 ○山野上祐介（東大大気海洋研）・澤井悦郎（広大院生物圏）
12.	16:00 － 16:30	南太平洋の温帯魚類相との関係 馬渕浩司（東大大気海洋研）

シンポジウムの趣旨

黒潮は強大な暖流で，関東以西の日本列島太平洋岸に沿って流れ，この海域の魚類相に大きな影響を及ぼしている．黒潮は南方系魚類を日本列島に運んでくると一般に信じられているが，しかし，具体的にどこからどこへ，どんな魚を運ぶのかはほとんど分かっていない．一方，本州から九州の沿岸に生息する魚類には，中国大陸沿岸や台湾には出現するが，琉球列島には分布しない種も多く知られている．さらに，琉球列島は日本の温帯域とも，またフィリピンなどの熱帯域とも異なる魚類相を形成している可能性が高いことも明らかになってきた．このようなことから，我々は黒潮が南方系魚類を移送する「ベルトコンベヤー」であると同時に，本州から九州に分布する温帯性魚類の琉球列島への移動を阻む「障壁」であるという作業仮説を立て，2007 年度から 2009 年度にかけて，科学研究費の補助を受けて研究を行った．本シンポジウムは，この研究で得られた成果を発表するとともに，日本及び西部太平洋の魚類に関する動物地理学的研究の方向性を検討するために計画した．なお，科研費プロジェクトに引き続き，国立科学博物館が開始した黒潮プロジェクトについても併せて紹介する．

2010年度日本魚類学会シンポジウム

会　　　場：三重県文化会館　第２ギャラリー
日　　　時：2010年９月26日（日）10:00 － 16:00

タナゴ亜科魚類を象徴とした持続可能な流水生態系保全の理論と実践
Theory and practice of sustainable lotic ecosystem conservation in bitterling fishes (Cyprinidae, Acheilognathinae) and freshwater mussels (Unionidae)

コンビーナー：北村淳一（三重県新博）・佐川志朗（土木研自然共生セ）・森　誠一（岐阜経済大）
コメンテーター：萱場祐一（土木研自然共生セ）・西尾正輝（氷見市教育委員会）

1. 10:00 － 10:15　趣旨説明：タナゴ類とイシガイ科淡水二枚貝類の繁殖生態と分布および危機的状況の概要
　○北村淳一（三重県新博）・佐川志朗（土木研自然共生セ）・森　誠一（岐阜経済大）
2. 10:15 － 10:45　産卵母貝の生きざまを理解する：イシガイ類の基礎から応用生態までの最新知見
　○根岸淳二郎（北大地球環境院・土木研自然共生セ）・佐川志朗・萱場祐一・久米　学・永山滋也（土木研自然共生セ）
3. 10:45 － 11:15　木曽川ワンド群におけるイタセンパラ生息場所の特徴と保全再生への一考察
　－繁殖ワンドと浮上稚魚微生息場所の環境特性に着目して－
　○佐川志朗（土木研自然共生セ）・根岸淳二郎（北大地球環境院・土木研自然共生セ）・萱場祐一・久米　学（土木研自然共生セ）・池谷幸樹（アクアトトぎふ）・北村淳一（三重県新博）・　白江健造（木曽川上流河川事務所）
4. 11:15 － 11:40　栃木県の農業用水路におけるミヤコタナゴおよび産卵母貝の生息状況と繁殖補助の効果
　○酒井忠幸・久保田仁志（栃木県水試）・高橋岳雄（栃木県自然環境課）・上田高嘉（宇都宮大教育）
5. 11:40 － 12:10　中国経済発展地域における河川の光と影‐タナゴ・アユモドキ類から濁度3200FTUまで
　鹿野雄一・佐藤辰郎・島谷幸宏（九大工）・○中島　淳（福岡県保環研）・北村淳一（三重県新博）

　12:10-13:25　休憩（昼食）

6. 13:25 － 13:50　島根県に生息するミナミアカヒレタビラ：生態研究を経て地域と連携した保全活動に至った経緯と今後の展開
　○鷲海智佳（ミナミアカヒレタビラ研究会・NPO法人流域ネット）
7. 13:50 － 14:20　タナゴ類も棲める河川・水路を目指した九州における整備事例
　○中島　淳（福岡県保環研）・鬼倉徳雄（九大院農）

　14:20 － 14:30　休憩

8. 14:30 － 15:00　流水生態系におけるタナゴ類の現状と具体的保全策と実践および将来戦略
　○北村淳一（三重県新博）
9. 15:00 － 16:00　総合討論
　司会：北村淳一；コメンテーター：森　誠一・萱場祐一・西尾正輝

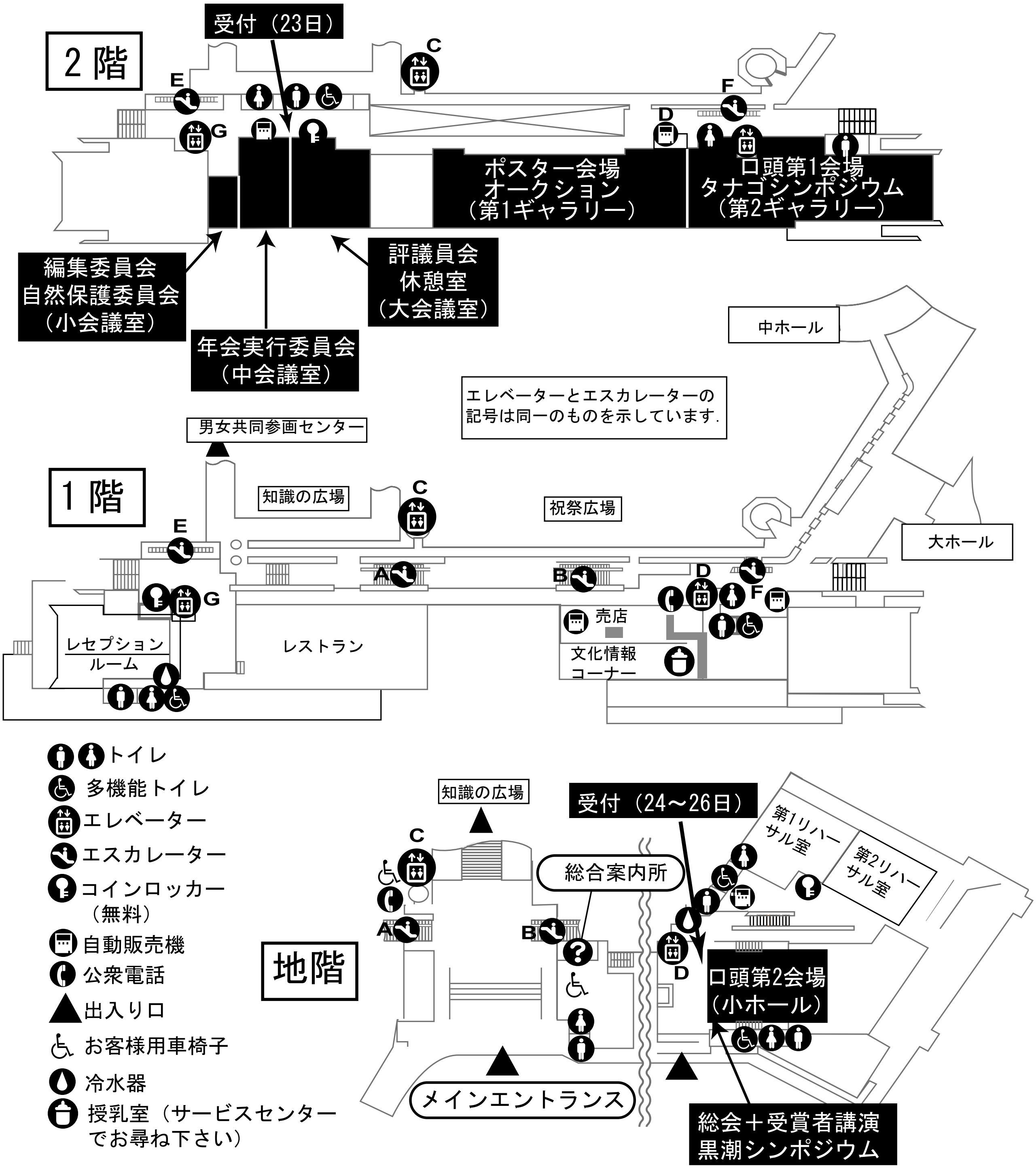
シンポジウムの要旨

現代の沖積平野の陸水生態系を構成する河川や湖沼，池，農業用水路は，ここ50年の人間の社会活動によりその物理環境は大きく改変された．その結果，その物理環境の構造的な多様性は失われ，それに依存してきた淡水生物の生物多様性もまた減少した．その中で，これらの沖積平野の特に地形勾配の平坦な陸水域に主に住む淡水生物として，コイ科タナゴ亜科魚類とイシガイ科の淡水二枚貝類がいる．タナゴ類は，卵を生きたイシガイ科二枚貝類の鰓内に産み込み，子は卵黄を吸収し終えるまで貝内で過ごすという特徴的な産卵様式を持つ．一方，淡水二枚貝類は，その幼生期の一部を淡水魚類に寄生して過ごす．この様に，タナゴ類とイシガイ科二枚貝類は，陸水域の物理環境だけでなくその生態系の構成種とも密接に関わり合いを持っており，いわば地形勾配の平坦な陸水域の指標種となりえる．そのタナゴ類とイシガイ科二枚貝類は，現在ではほとんどの種において絶滅が危惧されている．

タナゴ類やイシガイ科二枚貝類は生息環境特性からみると止水生と流水生に分かれ，湖沼では両タイプが生息するが，面積の小さい池では主に止水生の種のみ生息し，河川では種ごとに止水域（一時水域のたまりを含む）あるいは流水域に分かれて生息する．主に止水生の種が生息する池では，その生態の情報が蓄積され保全の理論や実践が比較的進んでいるが，流水生の種が生息する河川や農業用水路においては，その生態の実体をつかみつつある状態である（以上，北村，2008；根岸ほか，2008参照）．

そこで本シンポジウムでは主に流水生の種が生息する河川の氾濫原や小河川および農業用水路に焦点をあて，その現状と最新の生態的な知見，および実践的な保全活動を紹介し，流水域の持続可能な環境保全理論と将来に向けた保全戦略の構築を目指したい．

会場配置図（三重県文化会館）



2010年度日本魚類学会年会
会場（年会・懇親会）へのアクセス

津駅からの交通

年会会場【三重県総合文化センター内三重県文化会館】

〇三重交通バス　津駅西口から約5分

総合文化センター行き・夢が丘団地行き乗車，総合文化センター前・総合文化センター下車すぐ

〇徒歩　津駅西口から約25分，江戸橋駅から西へ向かい約20分

タクシー　津駅西口から約5分

懇親会場【津センターパレス（津都ホテル隣）】

〇三重交通バス　津駅前（東口）から約10分

米津行き・警察学校行きなど（多数の路線あり）乗車，三重会館前下車

●年会会場からは貸し切りバスを運行します．午後5時頃発車予定.

津駅西口バス停→総合文化センター方面（総合文化センター行き・夢が丘団地行き）バス時刻表

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
平日			3 45	18 40	40	18 40	18 40	18 40	18 40	18 40	45	25	10 45	25	5 40
土日祝			5 40	0 18 40	0 20 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	0 18 40	18 40	

総合文化センター前→津駅西口バス停　バス時刻表

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
平日	43	10 44	28	5 30	3	3 30	0 30	0 30	3 30	3 30	32	5 45	30	5 45	25
土日祝		10 44	25	0 30	3	3 30	0 30	30	3 30	3 30	3 30	0 30	0 30	0 30	0